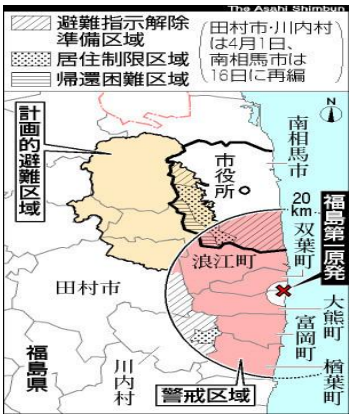
☆東日本大震災ボランテイア回顧録Ⅱ☆
南相馬市の復旧・復興への支援活動

早いもので東日本大震災から 3 年 9 か月も経ちました。今でも福島県では原発事故の放射能により 120,000 人が仮設住宅などでの避難生活を余儀なくされています。そのうち原発から半径 20Km以内の警戒区域と、原発の爆発時に大量の高放射能が流れた飯館村などの計画的避難区域からの避難者が 81,000 人とその大半を占めています。この区域には未だに高放射能のため立ち入りが制限され帰還出来ない状態が続いており、街並みは震災直後のままの状態で残っています。また仮設住宅に住む避難者の中には長年に亘る劣悪な住環境や孤独によるストレスのため健康障害や数多くの方がお亡くなりになっておられます。

警戒区域に入る南相馬市小高地区では避難者の早期帰還が出来るよう、2012 年 3 月から避難指示解除に向け小高ボランティアセンターが支援活動を始めました。

これを契機に岩手・宮城でのボラ活動（回顧録Ⅰ）から南相馬市での支援活動に切り替え、今日まで2年以上にわたり支援ボラ活動してきましたので、その活動の内容や被災地の様子など回顧録Ⅱ として紹介致します。

《福島県の放射能による居住規制区域と除染作業》



避難指示解除準備区域では 20 ミリシーベルト以下の避難解除を目標に除染作業が進められています。
環境省は今後 50 ミリシーベルト以上の帰宅困難区域での除染も進め、2021 年には避難解除を目標としています。

除染作業は国の委託した除染業者が被災者宅の屋根・壁を水洗いや拭き取り、庭や田畑は汚染された土を 5cm 厚さで除去しトン袋に詰め仮置き場に保管し、新しい土で被覆し放射能飛散防止の薬剤を散布します。周囲に森林がある場合は境界から 20m 幅で汚染された樹木の枝払いを実施します。残りの汚染られた森林はそのままです。

《南相馬市へのアクセス》

震災以来この区間を結ぶ幹線道路の国道 6 号線は高放射能や国道の損傷により浪江町～富岡町間が完全に閉鎖され関東方面からのアクセスが不可能になっていましたが、2014 年 3 月から特別通行証による通行可能になり、9 月から一般車両が通行出来るようになりました。

これにより、横浜から南相馬市に入るためには東北自動車道で二本松に行き、飯館村から八木沢峠（冬場は凍結）経由でしたが、常磐道で富岡町まで行き国道 6 号線を利用しダイレクトに南相馬に入れる様になりました。

これまでは検問所で通行証、同乗者の身元確認が必要でした

《開通した 6 号線沿線の様子》

放射線量の高い警戒区域内を通過するため、国道 6 号線沿道の浪江・双葉・大熊町などに通じる全ての脇道の入口にはバリケードが張り巡らされて侵入する事が禁止され、町の被災状況や様子を見る事は出来ません。

6 号線に面した民家

警戒中の警備員

至る所に進入禁止のバリケードや進入禁止表示が設置

6 号線から第 1 第原発に向かう分帰路(左：進入禁止)

ここから数百 m 先には原発が見え、線量は最も高く横浜では毎時 0.1 マイクロシーベルトに比べ今でも 30～50 倍の線量を示しています（2 年前は 100 倍以上もありました）

《小高地区でのボランテイア活動》

参加するボランテイアの数は年々減少してきており、被災者からの依頼にはとても応じきれない状態で、多くの依頼案件が積み残しになっています。またこれらの作業は殆んど遠隔地に住む被災者からの電話や文書による依頼で、立合いが無い場合が多いため、作業結果が依頼者の意向とは違っていたというトラブルが発生する事が時々あります。

ボランテイアセンターでの作業は、避難者が帰還出来るよう国が避難指示解除に向け除染をするため、その前準備として下記のような作業を行います。

・被災者宅や田畑の草刈や樹木・竹の伐採と粉砕
・瓦礫の分別廃棄や家財道具運び出し、室内清掃
・パイプハウスや物置の解体と片付運搬
・側溝掃除、瓦礫や廃棄家具等のトン袋詰め、等々・・

ボランテイアセンター

機器備品置場

ここには軽トラやユニック車、刈払機、チェーンソー、パイプカッター、樹木粉砕機、や発電機等全ゆる機器・備品が常備され、メンテもベテランのボランテイアさんが行っています。

センター2階の宿泊所

集まったボランテイア

各地から集まったボランテイアは寝袋を持込み雑魚寝するか、道の駅で車内泊または簡易旅館に泊まります。
作業は朝8時半にボラセンに集まり今日の作業のマッチングを受け、4～6 人グループで 1 つの現場に振り分けられ作業により必要な機器を軽トラに積み込んで現地に向います。中にはユニックや大型重機を扱う人や高木を伐採する木こり隊の特殊な技能をもった方もおられニーズに合った作業が振り分けられます。

被災者宅の草刈りと畑の灌木の伐採

パイプハウスの解体・草刈り

側溝の泥出しと瓦礫のトン袋詰め

家財道具の運び出し

伐採前の竹林

伐採した竹・灌木は減容のためウッドチッパーで粉砕します

ある夏、県外に避難している被災者の方からお盆に墓参したいのでお墓の掃除をして欲しいとの依頼でカーナビで現地に向かいましたが 2mほどの雑草が生い茂り何処にお墓があるか分かりません。草刈りを行い道路から約40m位先にやっとお墓が見つかり無事お墓の清掃が終了。。家族全員でで墓参で来た事を喜んでおられると思います。

ボラ仲間

ボラ作業で心地よい汗をかいた後、宿泊所で久し振りに会うボラ友達との情報交換やボラ友達と手料理で一献傾ける時はホント至福のホットするひと時です。

長年のボラ活動に対しセンター長より感謝状を頂きました

《小高での国の除染作業の様子、及び問題点》

除染のため撤去された汚染土や瓦礫は仮置き場に保管

小高ではあちらこちらで国による除染作業が進められ、高レベルの放射能を含む汚染土・廃棄物は黒いトン袋に詰められ現場付近の仮置場に積み上げられ放置されています。これらは更に減容され中間貯蔵用地に集積される予定ですが、国が進める中間貯蔵用地交渉が地権者の理解が得られず、中間貯蔵所の建設・運用に目途が立っておりません。

またメルトダウン・爆発を起こした 3 基の原子炉のある第 1 原発建屋内は高濃度の汚染瓦礫が残在しており、30～40 年掛ると言われている廃炉作業は未だに全く手つかずの状態。仮に作業を始めた場合、新たに放射性物質の飛散により汚染が拡大し再除染が必要となります。また福島県では 7 割を占める森林には高レベルの汚染状態で残ったままです。

現時点のアンケートでは避難している被災者やその家族の 7 割が“帰らない・帰れない!” と答えており、更に帰還が遅れた場合どれだけの避難者が帰還するのでしょうか？

◆富岡町の様子

6 号線沿線で唯一行ける JR 常磐線富岡駅周辺では震災後もボラの手も入らず、震災当時のままでイマも残っています。その状況のいくつかを紹介いたします。

殉職された警官のパトカー（全く元の形を留めていません）

駅前に立てられた慰霊碑

富岡町の木戸川には無数の鮭が遡上・産卵していました

◆「希望の牧場・ふくしま」

ボラセンから数 Km の浪江町にある牧場と代表の吉沢さん

原発から20km圏内の浪江町では3500頭の牛が飼育されていました。原発事故により住民が緊急避難したためそのまま放置され1500頭の牛が餓死し、さらに国の命令で1700頭以上の牛が殺処分されました。“臭いものには蓋”の証拠隠滅で“棄畜政策”が進めば“棄民”により被災者が見捨てられると国の方針に逆らい、「放射能事故の影響を記録するための生きた証拠」として現在も汚染された経済効果のない 330 頭を飼育しております。そして原子力政策を推し進めてきた国と、それに乗じて安全対策を怠り住民たちに大損害を与えた東電に対し十分な補償と放射能から声なき「命」を守るための街宣活動を続けておられます。

今後、国は長い年月をかけ手着かずの原子力建屋内の高レベルの瓦礫処理や溶け落ちた核燃料を取り出し廃炉に向けた作業が進むと考えられますが、少なくとも長い避難生活に苦しんでいる被災者の為に出来る事はホント僅かですが、“出来る時に、出来る人が、出来る事をする”をモットーに今後ともボランティア活動を続けて行きたいと思っています。

2014 年 12 月 25 日、記・写真：36 会　上野